

平成29年8月10日（総17第13号）
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

テロ関連情報

インドネシア国家警察は、昨年8月17日のインドネシア独立記念日に際しテロ攻撃の恐れが高まる時期として、警戒態勢を強化する旨を発表しました。現時点で当館管轄内において、独立記念日を前に具体的な脅威情報がある訳ではありませんが、インドネシア国内では、国家警察によるテロ容疑者の逮捕等引き続き厳重な警戒態勢が敷かれています。

つきましては、テロの標的となりやすい場所（政府・警察関係施設、宗教関連施設、ナイトクラブなど多くの欧米人が集まる場所、ショッピングモール等不特定多数が集まる場所等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

2 一般情勢

(1) 強風による高波に警戒

当地気象庁からバリ南部海域に強風による高波に注意するよう警報が発出されています。7月中旬から8月にかけて、海岸でマリンスポーツをしていた外国人観光客が波にさらわれ死亡する等、高波が原因と思われる水難事故が相次いで発生しています。波の高い海岸には近づかないようにし、海でのレジャーに際しては身の安全を十分確認するようにしてください。また、高波のためバリ島と近隣の島の間を運航するボートが頻繁に欠航しているとの情報もありますのでご注意ください。

(2) デング熱

バリ島内ではデング熱が依然流行しており、引き続き注意が必要です。デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが最善の予防方法ですので、防蚊対策を徹底し感染の予防に努めてください。なお、仮にデング熱が疑われる症状が発生した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けるようにしてください。

(3) 麻薬・薬物への注意

バリ州各地において、引き続きインドネシア人、外国人を問わず麻薬・薬物関連の逮捕事案が続いています。インドネシア国内では、7月下旬、大量の覚せい剤を密輸しようとしていた外国人らが逮捕、射殺されるなどの摘発事案が続き、警察当局は、薬物犯罪の摘発をさらに推進しており、外国人に対しても、死刑を含む重い判決を下すなど厳しい姿勢で臨んでいます。

バリ島内では、7月下旬以降、警察当局によるナイトクラブ等に対する強制捜査が頻繁に行われており、薬物が蔓延しているような危険な場所には近寄らないことをお奨めします。

3 邦人事件・事故関係

繁華街におけるオートバイによるひったくりや話しかけ・集団スリ（強盗）が後を絶ちません。7月中旬にはひったくりにより被害者が転倒して頭部を強打し重傷を負う事案も発生しています。当館からも、警察当局に対して警戒強化の要請を行っていますが、今一度所持品の管理に注意するとともに、徒歩での移動の場合には周囲に十分警戒してください。

(1) ひったくり被害

- 午後7時30分頃、家族で旅行中の一家がクタの暗い路地を歩行中、夫人がたすき掛けしていたポーチをバイクに乗った賊にひったくられそうになり、その際、引っ張られた勢いで転倒、頭部を強打し、脳内出血等の重傷。約10日間の集中治療の後、日本に医療搬送された。海外旅行傷害保険に加入あり。
- 深夜0時頃、女性旅行者がクタ・レギャン通り沿いのマッサージ店から宿泊ホテルに戻るため友人4人と縦一列になって最後尾を歩行中、歩道脇に立っていた男から左腕を引っ張られた際、右肩に掛けていた鞆を盗まれた。

(2) 空き巣被害

平日昼頃、ギアニヤール・スカワティ地区に住む在留邦人宅で、住人が数時間外出した間に何者かが室内に侵入し、パソコン、ビデオカメラ、現金等を盗まれた。外出時、家のすべての扉は施錠されていたが、賊は裏扉をこじ開け室内に侵入した可能性が高い。

4 その他

夏の海外安全強化月間 ～ 3 STEEPで安全対策！ ～

外務省では、「夏の海外安全強化月間」として、「外務省海外安全ホームページのチェック」、「たびレジへの登録」等への呼びかけを行っています。外務省海外安全ホームページのトップページに掲載されていますので、海外旅行、出張等の海外渡航の際にご一読ください。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>

以 上